

■ 2019年3月期 通期決算説明会 質疑応答の要約

ユナイテッド株式会社

2019年5月10日(金)開催の証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会において、出席者の皆様からいただいた主なご質問と当社の回答を以下にまとめております。

質問	回答
----	----

アドテクノロジー事業について

Q1 ブランド広告の拡大を含め、アドテクノロジー業界の状況と今後の見通しを教えてください。

ブランド広告市場は、今後も引き続き拡大すると見込んでいる。一方で、アプリやECなどの広告主によるパフォーマンス広告市場も拡大が続くと考えているため、インターネット広告予算全体は今後も伸びていくと見込んでいる。

その中でも伸びる業種や求められる広告プロダクトを見極め、顧客が求める新規プロダクトを開発し、バリューチェーンを構築していくことで、当社としても成長できると考えている。

Q2 4Qに収益性改善の手を打ったとあるが、具体的にどのような施策なのか、収益性改善は一過性のものか、今後も継続して効果が出るものなのか教えてください。

収益性改善施策は、具体的には以下の3点が挙げられる。

①adstirにおける媒体買い付けのコントロールを、今まで以上に厳格に運用したこと。

②HaiNaを始めとした新規プロダクトの開発により、プロダクト同士のバリューチェーン化が進み、一定の利益を確保できる構図が作れたこと。

③アプリ広告領域においても、媒体買い付けの管理を強化したこと。

以上のような構造的な取り組みを行ったため、当期以降も継続的に効果が出る改善ができたと考えている。

ゲーム事業について

Q3 2020年3月期での黒字化は見込めるのか教えてください。

ゲーム業界の状況を踏まえ、戦略の方向性を議論している。リリースするゲームタイトルの動向次第で流れが変わる可能性はあるが、現時点では2020年3月期でののれん償却費を含めた黒字化は難しいと見込んでいる。

コンテンツ事業について

Q4 先行費用が出ているが、2020年3月期も赤字なのか、また成長期待事業は今後どのようなことに重点的に取り組むのか教えてほしい。

成長期待事業の各グループ会社で複数の新規事業に取り組んでおり、現時点での合理的な数値の算出が困難なため、業績予想をお伝えすることは難しい。

各社の状況は、キラメックス(株)に関しては今期も順調に成長していくと考えている。既存の「TechAcademy」が順調に推移していることに加え、法人向けのIT研修も伸ばしていく。

(株)Smarprise、(株)アラン・プロダクツに関しては、外部環境の変化を受け、ビジネスモデルの転換や新規事業の立ち上げを進めている。

Fogg(株)に関しては、アイドル業界における一定のポジションを築いてきたので、これを軸としたエンターテインメントビジネス市場でのエコシステム構築を目指す。

各グループ会社ともに、事業構造の転換や成長見込みのある事業への投資などを行っている。

インベストメント事業について

Q5 宇宙ベンチャー特化型ファンドへの投資を行ったが、どのような背景か教えてほしい。

インターネット業界ではないため、より慎重に調査をした上で投資を決めた。当ファンドは複数の有望な宇宙ベンチャーに出資を予定しており、目利き力やネットワークを評価し投資を決定した。

以上